

〈コミュニケーション〉という抽象的概念には少なくとも話し手、聞き手、言葉の三つの要素が含まれている。英語では、言葉（ないし言語表現）と意味がそれぞれ〈容器〉と〈内容物〉として捉えられ、コミュニケーションは話し手が意味を言葉という〈容器〉に詰めて聞き手に送る (send) ことによって行なわれるものである (Reddy1979、Kövecses2002 など参照) と理解されるのに対し、日本語では、言葉と意味が融合して〈液体〉として捉えられ、コミュニケーションは〈液体〉のやりとりをすることで行なわれるものである (野村 2002 など参照) と理解される。日英間における〈コミュニケーション〉に対するこの種の通俗的理解の差異を表す具体例として、よく例 (1a)、(2a) のようなものが挙げられる。

(1) a. 英: Try to pact more thoughts into fewer words. (Reddy1979)

b. 中: ?试着将更多的想法装进更少的语言中

(2) a. 日: 罵声を浴びせる (大石 2006)

b. 中: ??泼骂声

しかし、例 (1b)、(2b) が示しているように、これらをそのまま中国語に訳すと、いずれも不自然な文になってしまう。

以上を踏まえて本発表では、〈コミュニケーション〉は中国語においてどのようにメタファー的に概念化されているかについて考察を行う。具体的に次の二点を中心に考察する。

I. 中国語における〈コミュニケーション〉に関する通俗的な理解について

例 (3)、(4) が表すように、中国語では、身体 (口、耳など) は〈容器〉、言葉は〈内容物〉として捉えられ、〈コミュニケーション〉は〈内容物〉がある〈容器〉から別の〈容器〉へ移動することで実現されるものであると理解されている。

(3) 他从未想到“不知道”这三个字也会从桌东来的嘴里说出来。

[彼は“不知道” (知らない) という三文字がまさか卓東来 (トウトウライ) の口から出るとは思ってもみなかった。]

(4) 高自萍的耳朵里象是灌了黄腊，一句话也没听进去。

[高自萍は耳の中にまるで蜜蝋が注がれていたようで、一言も聞き取ろうとしなかった。]

また、例 (3)、(4) における言葉の形態は〈抽象物〉であるが、この他にも〈固体〉 (例 (5a))、〈連続体〉 (例 (5b))、〈液体〉 (例 (5c)) などの形態をとる。

- (5) a. 把心里话掏出来[本音を言う (←手を突っ込んで取り出す)] (固体)
- b. 唯一引人注目的是那张尖尖的快嘴,连珠炮似的……[唯一人目を引くのは尖った矢継ぎ早に話すその口で、まるで続けざまに撃つ大砲のようである…] (連続体)
- c. 憋在肚子里的话,一下子都通到舌头尖[腹におさめた言葉は一気に舌の先まで来た (←湧く)] (液体)

注意すべき点は〈コミュニケーション〉に対する通俗的な理解に関する中国語と日英語との違いである。以下の (i)、(ii) と (iii)、(iv) はそれぞれ日中、中英の違いを示している。

(i) 例 (2a) が示すように日本語では、〈コミュニケーション〉の意味を表す液体表現は必ずしも〈容器〉のメタファーを必要としない (さらに鈴木 2009 参照) が、中国語では例 (5c) のように、必ず〈身体 (部位) は容器〉というメタファーを必要とする。

(ii) 例 (6a) が示すように日本語では、言葉と意味が融合して〈液体〉として捉えられるのに対し、例 (6b) が示すように中国語では、言葉は〈容器〉、意味は〈内容物〉として捉えられる。

(6) a. 日：言葉/意味/考え/気持ちを汲む (野村 2002)

b. 中：言谈话语中流露出了去意[言葉から去る意志が滲み出た]

(iii) 例 (1a) が示すように英語では、固体 (object) としての意味をそれとは独立して存在する言葉という容器から出し入れすることができるのに対し、中国語ではそのような操作は認められない (例 (1b) 参照)。

(iv) 例 (7a) が示すように英語では、言葉は導管のようなものとみなされ、意味はこの導管を通じて話し手によって聞き手に届けられるのに対し、例 (7b) が示すように中国語では、言葉は〈携帯可能なもの〉として捉えられ、話し手以外の第三者によって聞き手に届けられる。

(7) a. 英：Try to get your thoughts across better. (Reddy1979)

b. 中：请给总理捎个话[総理にことづけてください (←ついでに持って行く)]

II. 中国語における〈コミュニケーション〉を特徴付ける主な概念領域

〈コミュニケーション〉(もしくは言葉) を特徴付ける概念領域として、すでにみた〈言葉は内容物〉、〈言葉は容器〉、〈言葉は携帯可能なもの〉以外に、さらに以下のようなもの

が挙げられる。

- (i) 〈固体〉：话音未落[（その）声はまだ終わらない（←落ちる）]
- (ii) 〈連続体〉：一串话[ひとつながりの言葉]
- (iii) 〈鋭利なもの〉：尖刻的语言[辛辣な言葉（←尖っている）]
- (iv) 〈自然現象〉：一句话犹如晴天响雷[この言葉はまるで晴天の雷のようである]
- (v) 〈建物〉：对话基础[対話の基礎]
- (vi) 〈ビジネス〉：平等对话[平等に対話する]

なお、〈建物〉、〈ビジネス〉としての〈コミュニケーション〉における起点領域は、〈コミュニケーション〉の上位概念に当たる〈(対人) 関係〉から継承されたものであると考えられる。

主要参考文献

- Kövecses, Zoltan. 1995. American friendship and the scope of metaphor, *Cognitive Linguistics* 6(4), pp. 315-346.
- Kövecses, Zoltan. 2002. *Metaphor: A practical introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Reddy, M. J. 1979. The conduit metaphor: A case of frame conflict in our language about language, A. Ortony (ed.), *Metaphor and Thought*, Cambridge University Press, pp. 284-324.
- 大石 亨 2006. 『水のメタファー』再考：コーパスを用いた概念メタファー分析の試み』『JCLA6』 pp. 277-287.
- 鈴木 幸平 2009. 「〈コミュニケーション〉の比喩表現—日英比較の観点から—」『神戸言語学論叢』 pp. 21-31.
- 野村 益寛 2002. 「〈液体〉としての言葉—日本語におけるコミュニケーションのメタファー化をめぐる—」大堀（編）『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』 pp. 37-57. 東京大学出版会
- 中国語用例出典：北京大学漢語語言学研究センターCCL 語料庫